

## 日本都市計画学会全国大会において研究成果を発表しました (2022/12/3)

テーマ：白鬚東地区防災拠点, 江東デルタ, 白鬚東アパート, 都市の脆弱性, 高齢化, 地区防災活動  
 会場：宇都宮大学 陽東キャンパス (栃木県宇都宮市)  
 URL：<https://www.cpij.or.jp/event/conf/2022.html>

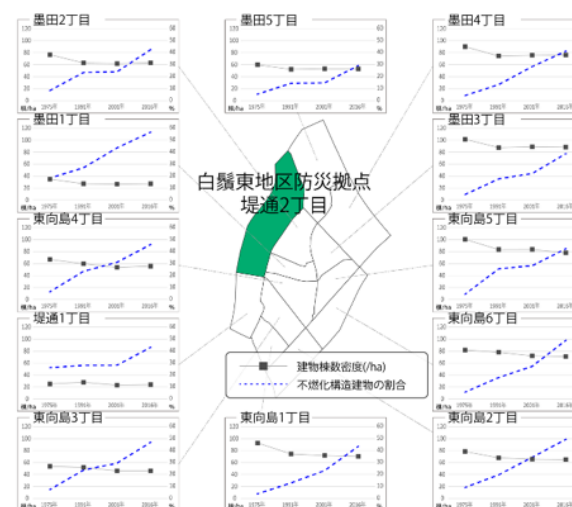
2022年12月2日から4日にかけて、日本都市計画学会2022年度全国大会(第57回論文発表会)が宇都宮大学で開催されました。

当研究所の村尾修教授(国際防災戦略研究分野)は、大会2日目の論文発表会において、「周辺市街地環境の変化を考慮した白鬚東地区防災拠点再開発事業の検証」についての成果発表を行いました。東京都の白鬚東地区は1982年の竣工以降、地域の防災拠点として運用されてきました。本研究では、白鬚東地区防災拠点における40年間の経過を、ハード面である防災拠点としての施設・設備の維持管理、ソフト面である住民による地域防災活動と意識、周辺地区の建物とオープンスペースの変化、という3つの観点から整理しました。防災拠点は、周辺市街地の変化など環境に合わせて防災機能が変更されてきましたが、現在も重要な防災拠点として位置付けられていることが分かりました。防災団地では防災意識の高い住民が多く、現在も様々な防災活動に取り組んでいますが、団地の高齢化が進むなかで災害時に団地住民のみで避難者を支援することは困難です。そのため、今後は新たに入居した住民や近隣住民などに、建設当初から住む団地住民の防災意識をどのように継承していくかが課題となっています。白鬚東地区防災拠点という地域の財産を活かし、地域の災害対応力を向上させるためには、周辺地区の現状を把握したうえで周辺地区との連携を強化し、地域住民とともに防災拠点を支えていくことが重要になっています(論文詳細：[doi.org/10.11361/journalcpij.57.964](https://doi.org/10.11361/journalcpij.57.964))。

村尾教授は、2020年10月に設立した特定非営利法人地域防災推進機構の理事長も務めており、地域防災への取り組みを進めています。今年度は、白鬚東地区自治会連合会と連携し、墨田区の保育園において合同防災訓練を行い、防災教育にも貢献しました。これからも地域の防災への取り組みに携わり、多角的に支援する所存です。



白鬚東防災拠点全景



町丁目ごとの街の変化  
(発表スライドより抜粋)